

地域を語ることができる児童を育成する「さいと学」の研究  
 ～歴史・伝統的素材に焦点を当てた「さいと学」の小中高を見通したカリキュラム編成～

目 次

<b>I</b>	研究主題	5 - 1
<b>II</b>	主題設定の理由	5 - 1
<b>III</b>	研究仮説	5 - 2
<b>IV</b>	研究の全体構想図	5 - 2
<b>V</b>	研究の経過	5 - 4
<b>VI</b>	研究の実際	
	1 『「知る」「語ることができる」が「愛する」につながる』妥当性について	
	(1) 実態調査のねらい	5 - 4
	(2) 実態調査の項目	5 - 4
	(3) 実態調査の方法	5 - 5
	(4) 実態調査の結果	5 - 5
	(5) 実態調査から見えてくるもの	5 - 6
	2 小中高を見通した校種ごとの学習内容の配列例	
	(1) 学習内容配列の基本的な考え方	5 - 6
	(2) 小学校の学習内容	5 - 7
	(3) 中学校の学習内容	5 - 7
	(4) 高等学校の学習内容	5 - 8
	3 小学校段階の学習内容の配列例	
	(1) 小学校の学習内容配列の基本的な考え方	5 - 8
	(2) 第1・2学年の学習内容の配列例	5 - 8
	(3) 第3学年から第6学年までの学習内容の配列例作成の視点	5 - 8
	(4) 配列例作成の手順と配列例の実際	5 - 8
	4 単元計画例作成	
	(1) 単元計画例作成の基本的な考え方	5 - 9
	(2) 単元計画の実際	5 - 9
	5 1単位時間の授業展開例の作成	
	(1) 「知る」授業展開の基本的な考え方	5 - 12
	(2) 歴史的内容を「知る」授業展開の方法	5 - 12
	(3) 歴史的内容を「知る」1単位時間の授業展開例	5 - 13
	(4) 歴史に関わった人々の生き方を「知る」授業展開の方法	5 - 14
	(5) 歴史に関わった人々の生き方を「知る」1単位時間の授業展開例	5 - 16
	6 評価方法の工夫	
	(1) 「語る」を評価する基本的な考え方	5 - 16
	(2) 「対話」の具体的方法	5 - 16
	(3) 「対話」とルーブリック	5 - 16
	(4) 理想とする児童の「語り」	5 - 17
<b>VII</b>	研究の成果と課題	
	1 成果	5 - 19
	2 課題	5 - 20
	〈引用文献〉	5 - 20
	〈参考文献〉	5 - 20

## I 研究主題

地域を語るができる児童を育成する「さいと学」の研究  
～歴史・伝統的素材に焦点を当てた「さいと学」の小中高を見通したカリキュラム編成～

## II 主題設定の理由

地域は、豊かな自然、歴史・文化などを有し、子どもたちの成長・発達を支える重要な場となっている。その地域を学び、地域を通して自分の生き方について考える『地域学』が、来年度、本県の3市1町で新教科として実施される。西都市も、本年度、構造改革特別区域（特区）に認定され、来年度より『地域学』の西都市版「さいと学」がスタートする。

宮崎県版「学習指導のための要領・解説—地域学編—」では、地域学とは『生涯にわたってふるさとを愛する心と態度を育てること』をねらいとしている。この中で、『ふるさとを愛する』は抽象的であり、「愛する」の定義は難しい。そこで「愛する」までを【表1】のように三つの段階として捉え、具体的な姿として地域を「知る」「語るができる」という姿を目指すことが「愛する」につながると考えた。

したがって、本研究の目標を、具体的な姿の最終段階である、地域を語るができる児童を育成することとし、『地域を「知る」「語るができる」が「愛する」につながる』の妥当性も明らかにすることとした。

現在、西都市での「ふるさと教育」は総合的な学習の時間に取り組まれている。しかし、小学校、中学校で学習内容が重複していたり、西都市全体で共通した内容を学ぶシステムがなかったりという課題が挙げられる。そこで小中高の12年間を見通したカリキュラムを編成し、実施することで、各校種間学年間の学習内容の重複が避けられ、西都市全体で共通した内容を学ぶことが可能になる。

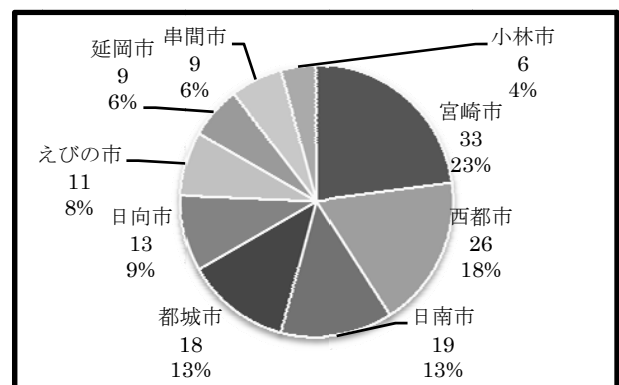
一方、地域の特性に目を向けると、西都市は歴史・伝統的素材に恵まれている。

まず、挙げられるのが歴史・伝統的分野の指定文化財が多いことである。例えば、西都市の歴史・伝統的分野の国指定文化財は11件、県指定文化財は15件、合計26件の指定文化財があり、【図1】のように宮崎市について県内第2位となる。人口一人当たりの文化財の割合では、宮崎市の30倍になる。また、古墳の数は511基で県全体の古墳数の46%を占め第1位である。

次に、歴史・伝統的分野の指定文化財の質の高さが挙げられる。日本最大級の帆立貝式古墳「男狭穂塚」、九州最大の前方後円墳「女狭穂塚」を筆頭に、県内唯一の国宝が出土している百塚原古墳、かつて日向（現宮崎県）の中心地であった「日向国分寺跡」「日向国府跡」「都於郡城址」など、国や県を代表する指定文化財が残されている。

【表1 愛するまでの段階】

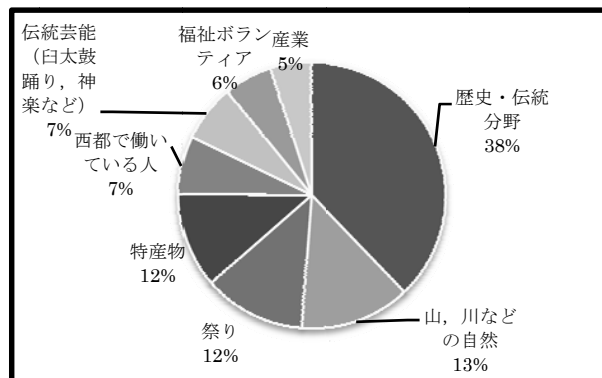
愛する	← 語るができる ←	知る
抽象的な姿	具体的な姿	



【図1 県内における国県指定文化財の割合】

また、西都市研究センターが本年度実施したアンケート調査では、「西都市のことで、もっと知りたいことは何ですか？」という問いに対して小学校4年生から6年生の抽出児童2630回答（593名・複数回答）の中で、【図2】のように歴史・伝統的分野は996回答あり、全体の38%で第1位であった。

以上のことをふまえ、「さいと学」において、西都市ならではの素材（歴史・伝統的素材）に焦点を当て、小中高を見通したカリキュラムを編成することで、児童は地域を語ることができ、地域を愛することにつながると考え、本研究の主題と副題を設定した。



【図2 西都市の児童が知りたいことの割合】

### III 研究仮説

『地域を「知る」「語るができる」が「愛する」につながる』妥当性を明らかにし、地域を語るができる児童を育成するために、「さいと学」のカリキュラム編成を行う。この目的を達成するために以下1～3の内容を研究し、それに応じた仮説を二つ設定した。

- 1 『地域を「知る」「語るができる」が「愛する」につながる』妥当性の調査による検証
- 2 実践レベルにおける単元構成の工夫
- 3 実践レベルにおける評価方法の工夫

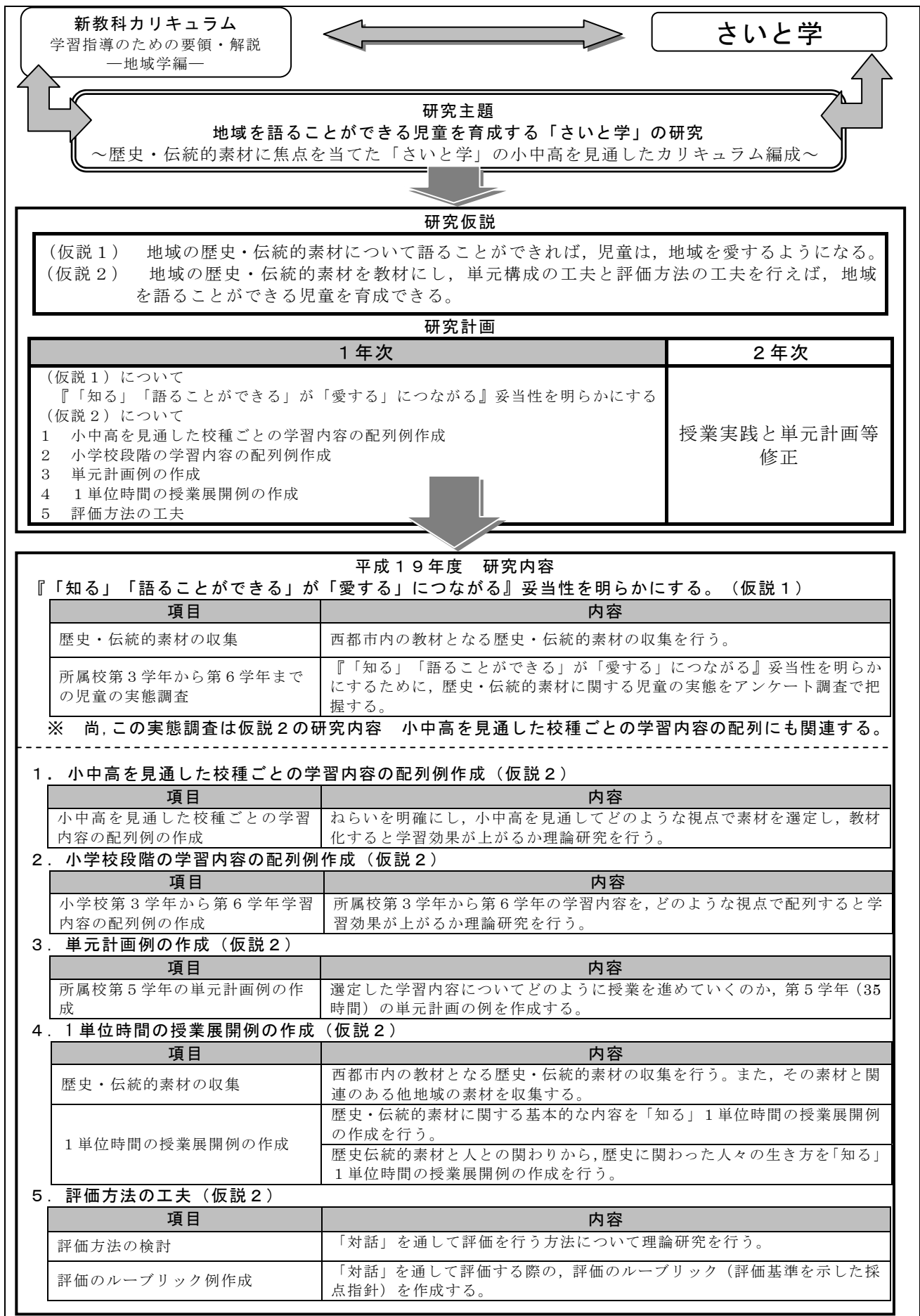
- (仮説1) 地域の歴史・伝統的素材について語る事ができれば、児童は、地域を愛するようになる。
- (仮説2) 地域の歴史・伝統的素材を教材にし、単元構成の工夫と評価方法の工夫を行えば、地域を語る事ができる児童を育成できる。

仮説2における、単元構成の工夫とは、以下の1～4となり、評価方法の工夫は5となる。

- 1 小中高を見通した校種ごとの学習内容の配列例作成を行う。  
(西都市全体の小中高12年間の系統性をもった学習内容の配列)
- 2 小学校段階の学習内容の配列例作成を行う。  
(小学校第3学年から第6学年までの「学校からの距離」「他教科との関連」を考慮した学習内容の配列)
- 3 単元計画例作成を行う。  
(「知る」「語る」という流れのある35時間の単元計画)
- 4 1単位時間の授業展開例作成を行う。  
(歴史的内容を「知る」・歴史に関わった人々の生き方を「知る」授業展開例)
- 5 評価方法を工夫する。  
(「語る」を評価する方法についての理論構築)

### IV 研究の全体構想図

研究全体を【図3】の構想図としてまとめた。(次ページ参照)



**【図3 研究の全体構想図】**

## V 研究の経過

月	研究内容	研究方法
4	研究計画・先行研究の情報収集，西都市の歴史・伝統的素材の収集 (文献調査・現地取材)，HTML 資料集(年表・マップ作成・特徴)作成， 実態調査項目案作成，小中高を見通した学習内容配列の視点についての 理論研究と配列例の作成，実態調査項目案作成，指定文化財の割合調査， 評価法(ポートフォリオ評価)の研究	理論研究 調査研究
5		
6		
7		
8	HTML 資料集作成，実態調査実施，所属校6年間の学習内容配列の視点 についての理論研究と配列例の作成，所属校第5学年の単元計画例の作 成	理論研究 調査研究
9		
10	単元計画例作成，HTML 資料集作成，評価モデル作成	理論研究
11	1 単位時間の授業展開例作成，HTML 資料集作成，評価モデル完成	理論研究
12	研究実践のまとめ・研究報告書作成，HTML 資料集作成	理論研究
1	研究実践のまとめ・研究報告書作成，HTML 資料集作成	理論研究
2	研究実践のまとめ・研究報告書作成，HTML 資料集作成	理論研究
3	研究実践のまとめ・研究報告書作成，研究報告書完成，HTML 資料集完成	理論研究

## VI 研究の実際

- 『「知る」「語ることができる」が「愛する」につながる』妥当性について  
妥当性を明らかにするために実態調査を行った。

### (1) 実態調査のねらい

この調査では、『「知る」「語ることができる」が「愛する」につながる』妥当性を明らかにすることがねらいである。そのため、児童が西都市の歴史・伝統的素材について「名前を知っている」「特徴を知っている」「説明することができる」「大切に思う」という4つの視点で調査を行うことにした。

「知る」は「名前を知っている」と「特徴を知っている」という二つの視点にし、知っている程度を把握できるようにした。「語ることができる」は「説明することができる」に、「愛する」は「大切に思う」に置き換え具体的なものとした。

### (2) 実態調査の項目

調査の項目設定は、大きく三つとした。第1の項目は、指定文化財という客観性に着目し、西都市にある指定文化財(国・県・市指定)を中心とした史跡・旧跡と美術工芸品である。第2の項目は、国レベルで歴史的に有名であったり、史跡・旧跡に関係したりした人物である。第3の項目は、児童の意識調査の結果をいかし、学習したい内容として上位に位置した神話・伝説分野の伝承地・伝承話である。

三つの項目にあてはまる素材の中から、現地取材情報と、文献収集から得た情報をすり合わせ、西都市の歴史・伝統的分野のものとして重要だと判断した史跡・旧跡、美術工芸品、人物、伝承地・伝承話を最終項目として設定した。

### (3) 実態調査の方法

史跡・旧跡については、西都原古墳群で一番古いとされている「前方後円墳 81号」を筆頭に 39 項目。美術工芸品については、平安時代の作品と言われる「酒元観音立像」を筆頭に 11 項目。人物については、五智如来像を彫った「木喰上人」を筆頭に 10 項目。伝承地では、古事記・日本書紀にゆかりのある「記紀の道」を筆頭に 6 項目。伝承話についても、古事記・日本書紀に登場する「イワナガ姫伝説」を筆頭に 3 項目。合計 69 項目とし、それぞれについて【資料 1】のように、「名前を知っている」「特徴を知っている」「説明することができる」「大切に思う」を問う内容とした。尚、調査対象は、妻北小学校第 3 学年から第 6 学年の児童全員である。

西都市についてのアンケート用紙 2				
平成19年 月 日 ( ) 小 年 組 名前( )				
このアンケートは、西都市の文化財(史跡・旧跡)について調べるものです。テストではありませんので、あてはまるものに○をつけてください。いくつつけてもかまいません。あてはまるものがなければ、なにもつけなくていいです。				
文化財(史跡・旧跡)	名前を知っている	どんなところが特徴(場所や形など)を知っている	どんなところが人に説明することができる	この場所を大切に思う
前方後円墳(ぜんぼうこうえんぶん)81号				
前方後円墳(ぜんぼうこうえんぶん)100号				
前方後円墳(ぜんぼうこうえんぶん)13号				
円墳(えんぶん) 169号				
円墳(えんぶん) 170号				
帆立貝式古墳 男狭穂塚(おさほづか)				
前方後円墳 女狭穂塚(めさほづか)				
方墳(ほうぶん) 171号				
円墳111号・4号地下式横穴墓(おうけつぼ)				
鬼の窟古墳(おにのいわやこぶん)				

#### 【資料 1 実態調査の一部】

### (4) 実態調査の結果

調査人数は 374 名でその内訳を【表 2】に示す。「名前を知っている」「特徴を知っている」「説明することができる」「大切に思う」という 4 つの項目の関連を探るため、2 つの項目の組み合わせを、6 パターン挙げて集計した。

【表 2 学年人数内訳】

学年	人数
3	97
4	100
5	85
6	92
合計	374

【表 3】～【表 8】について  $\chi^2$  乗検定を行った結果、全てのパターンにおいて有意差が認められた。

【表 3 説明することができると大切に思う】

	大切に思う	大切に思わない
説明することができる	541	128
説明することができない	3891	21246

$$\chi^2 = 1958.70 \quad \text{危険率 } p < 0.0001$$

したがって、【表 3】においては、「説明することができる」と「大切に思う」は関連があった。

【表 4 特徴を知っていると大切に思う】

	大切に思う	大切に思わない
特徴を知っている	954	513
特徴を知らない	3442	20897

$$\chi^2 = 2535.26 \quad \text{危険率 } p < 0.0001$$

【表 4】においては、「特徴を知っている」と「大切に思う」は関連があった。

【表 5 名前を知っていると大切に思う】

	大切に思う	大切に思わない
名前を知っている	1783	2315
名前を知らない	2616	21708

$$\chi^2 = 2876.17 \quad \text{危険率 } p < 0.0001$$

【表 5】においては、「名前を知っている」と「大切に思う」は関連があった。

【表6】においては、「特徴を知っている」と「説明することができる」は関連があった。

【表6 特徴を知っていると説明することができる】

	説明することができる	説明することができない
特徴を知っている	563	904
特徴を知らない	115	24224

$$\chi^2 = 7770.73 \quad \text{危険率 } p < 0.0001$$

【表7】においては、「名前を知っている」と「説明することができる」は関連があった。

【表7 名前を知っていると説明することができる】

	説明することができる	説明することができない
名前を知っている	613	3485
名前を知らない	56	21652

$$\chi^2 = 2950.12 \quad \text{危険率 } p < 0.0001$$

【表8】においては、「名前を知っている」と「特徴を知っている」は関連があった。

【表8 名前を知っていると特徴を知っている】

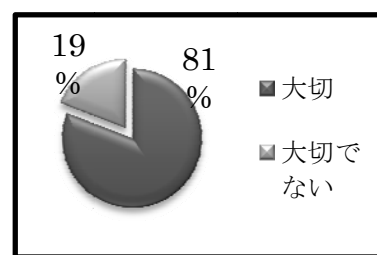
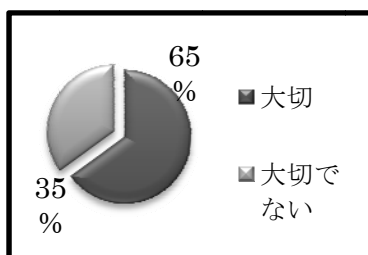
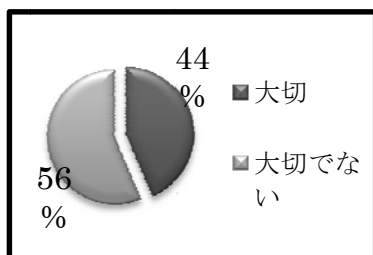
	特徴を知っている	特徴を知らない
名前を知っている	1284	2814
名前を知らない	183	21525

$$\chi^2 = 5976.89 \quad \text{危険率 } p < 0.0001$$

(5) 実態調査から見えてくるもの

関連性は明らかになったものの、説明できることを目指すことで、大切に思うことにつながるのか疑問が残る。そこで、【表3】～【表5】について大切に思う児童の割合を比較したところ、【図4】～【図6】となった。

これらの【図4】～【図6】から、歴史・伝統的素材について名前を知っている児童よりも、特徴を知っている児童の方が大切に思う割合が高く、更に、特徴を知っている児童よりも、説明できる児童の方が大切に思う割合が高い傾向があることがつかめた。



【図4 名前を知っていると回答した中で大切に思う割合】 【図5 特徴を知っていると回答した中で大切に思う割合】 【図6 説明できると回答した中で大切に思う割合】

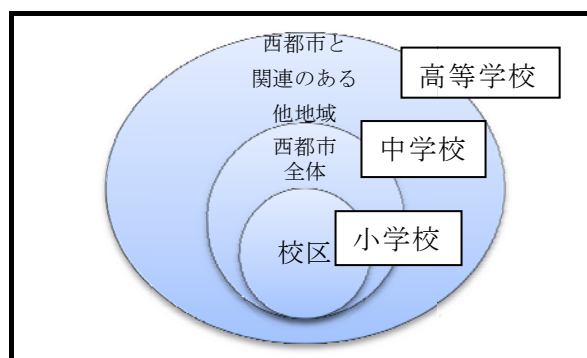
しかし、語ることができれば、児童は、地域を愛するようになるという因果関係があるとは言えない。これについては、来年度、授業実践を行い児童の変容をみることで検証する。

2 小中高を見通した校種ごとの学習内容の配列例

学習内容とする歴史・伝統的素材は、実態調査で挙げた69項目から選定した。

(1) 学習内容配列の基本的な考え方

配列は、【図7】のように、小学校では校区、中学校では西都市全体、高等学校では西都市に関連のある他地域とし、校種によって学習する歴史・伝統的素材のある場所を拡大することにした。



【図7 学習内容配列の考え方（小中高）】

(2) 小学校の学習内容

実態調査をもとに、「名前を知っている」「特徴を知っている」「説明することができる」歴史・伝統的素材のそれぞれの回答数（100 以上）を妻北小の校区と校区外に分けてまとめると、【表 9】～【表 11】を得た。

このことから、児童が答えた歴史・伝統的素材は校区に集中していることがつかめた。したがって、校区の素材は児童にとって取り組みやすいと考え、小学校では歴史・伝統的素材を校区のものとした。

(3) 中学校の学習内容

中学校では西都市全体の歴史・伝統的素材を学習内容とし、西都市全ての中学生が、3 年間で市全体の歴史・伝統的内容を学習できるようした。

【表 9 校区と校区外の比較（名前を知っている）】

項目	校区			校区外	
	女狭穂塚	201	男狭穂塚	204	茶臼原古墳 131
名前を知っている	鬼の窟	300	稚児ヶ池	356	
	都万神社	369			

【表 10 校区と校区外の比較（特徴を知っている）】

項目	校区			校区外	
	鬼の窟	162	稚児ヶ池	216	なし
特徴を知っている	都万神社	267			

【表 11 校区と校区外の比較（説明できる）】

項目	校区			校区外	
	稚児ヶ池	112	都万神社	143	なし
説明できる					

【表 12 小中高を見通した歴史・伝統的素材の配列例】

校区 学年	小学校	妻北 妻南 穂北 茶臼原 三納 都於郡 三財 銀上								
		1	学校（例 現在から順に 1 年前の学校，5 年前の学校，10 年前の学校）							
2	学校（例 1 世代前の学校，2 世代前の学校，3 世代前の学校，創立時の学校）									
小学校	校区を知り語る	都万神社 桜川伝説 神宮寺跡 稚児ヶ池	印鑰神社 丹裳小野 伝承地	南方神社 あしなづ ちてなづ ち伝説	児屋根塚 古墳	三納 古墳群	都於郡城址 大安寺池	常心塚古墳	銀鏡城址	
		記紀の道	記紀の道	児玉 久右衛門 杉安井堰	児玉 久右衛門 杉安井堰	松本塚古墳	黒貫寺仏像 都於郡古墳	三財古墳群	イワナガ姫 鏡の伝説 銀鏡神楽	
		西都原 古墳群	西都原 古墳群	上穂北 古墳群 千畑古墳	茶臼原 古墳群	長谷観音像 長谷六地 蔵塔	岩爪神社 鹿野田神社	川郎淵隧道 横穴墓群	銀鏡神社 神面 2 面 方格四乳葉 文鏡	
		日向国府跡 酒元観音 立像 山路毘沙 門天像	日向 国分寺跡 三宅神社 木喰上人 五智如来像	穂北城址 如法寺 老岐加賀守 長倉洞雲斎	石井十次	三納城址 飯田備前 守祐恵 信古堂跡	和泉式部墓地 伊東義祐 伊東マンショ 伊東氏墓地	岩崎稲荷 六地藏塔 川原田 六地藏塔	尾八重城址 的場兵部 有楽椿織田 有楽斎長益	
校区 学年	中学校	妻		穂北	三納	都於郡	三財	銀鏡		
		1	西都市の古墳・奈良・平安時代の歴史・伝統的素材 （例 西都市各地の古墳，日向国分寺跡，日向国府跡など）							
中学校	西都市全体を知り語る	2	西都市の鎌倉・室町・安土桃山時代の歴史・伝統的素材 （例 伊東氏関連の史跡，人物，人物には伊東マンショを含む）							
		3	西都市の江戸・明治・大正・昭和の歴史・伝統的素材 （例 児玉久右衛門，木喰上人，石井十次など人々に貢献した人物）							
高等学校	他地域と比較して西都市を知り語る	1	西都市の歴史・伝統的素材と比較できる県内の歴史・伝統的素材 （例 生目古墳群，佐土原城址，日南市鉄肥城など）							
		2	西都市の歴史・伝統的素材と比較できる日本の歴史・伝統的素材 （例 石舞台古墳，平城宮跡，東大寺，平安神宮，国宝毘沙門天像など）							
		3	西都市の歴史・伝統的素材と比較できる世界の歴史・伝統的素材 （例 エジプトのピラミッド，朝鮮半島の古墳など）							

素材を選定するにあたり、二つの視点を設定した。第 1 に、ほとんどの校区に関連のある素材，第 2 に教育的価値のある素材である。配列においては、古いものから新しいもの



という年代順にした。具体的には【表 12】のように配列した。

#### (4) 高等学校の学習内容

高等学校では、中学校までに学んだ西都市の歴史・伝統的素材と比較できる他地域の素材を学習内容とした。

素材の選定は、西都市の指定文化財（史跡・旧跡、美術工芸品）と比較できる他地域の文化財とした。配列においては、県、日本、世界というように比較する場所の範囲を拡大した。具体的には【表 12】のように配列した。

### 3 小学校段階の学習内容の配列例

#### (1) 小学校の学習内容配列の基本的な考え方

配列は、【図 8】のように、第 1・2 学年は学校、第 3 学年から第 6 学年は、学校に近い素材から遠い素材とし、学年が上がるごとに、学習する歴史・伝統的素材のある場所を拡大することにした。

これは、学校からの距離が、児童の発達段階に応じた活動の展開を考える上で、重要な要素となるからである。

#### (2) 第 1・2 学年の学習内容の配列例

第 1・2 学年では、「学校」を歴史・伝統的素材として配列した。これは、本

来考えていた歴史・伝統的素材よりも、まず「学校」を学ぶことを通して、歴史や伝統というものを捉えさせ、第 3 学年からの学習への橋渡しとするためである。

具体的な例として、第 1 学年で、「学校」の現在から 10 年前までを、時間をさかのぼる形で学習し、第 2 学年では、10 年前から学校創立の年まで、世代（約 25 年）をさかのぼる形で学習する。

#### (3) 第 3 学年から第 6 学年までの学習内容の配列例作成の視点

学習内容配列作成に当たり、【図 8】の距離の視点に、社会科との関連という視点を加えることにした。

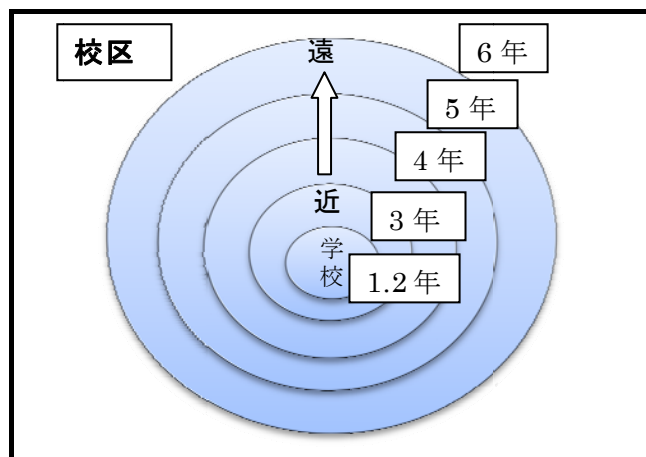
これは、知識獲得を促進するための条件として教育心理学の立場から『知識を羅列的に教え込むのではなく、関連のある事項同士をまとめて整理したり、既有知識と関連づけて覚えさせるように指導することも知識獲得のための重要な条件である。<sup>1)</sup>』という考えを基盤に置いたからである。

#### (4) 配列例作成の手順と配列例の実際

まず、距離の視点から、1 km 未満は第 3 学年、2 km 未満は第 4 学年、3 km 未満は第 5 学年、3 km 以上は第 6 学年とし、歴史・伝統的素材を配列する。この配列を基本とし、より効果的に学習がすすむように社会科との関連をもたせ、【表 13】とした。

このとき、社会科との関連で学習する学年を変更したものは、日向国府跡と酒元観音立像である。

どちらも、第 3 学年を第 6 学年に変更した。その理由は、藤原氏との関連が深く、藤原



【図 8 学習内容配列の考え方（小学校）】

氏は、第6学年社会科で学習するからである。

#### 4 単元計画例作成

##### (1) 単元計画例作成の基本的な考え方

単元計画では、児童が歴史・伝統的素材について、語るができるようにするため、「知る」段階、「語る」段階を設定し、【表14】を基本モデルとした。

まず、オリエンテーションの段階で、児童が、学習の流れをつかむようにし、「知る」段階で、児童が資料を通して歴史・伝統的素材の概要を知り、体験を通して詳細を知るようにする。

最後に「語る」段階で、児童が、発表する活動を通して語り、更に、教師との対話を通して語るようにする。

##### (2) 単元計画の実際

具体的な単元計画について第5学年を例として述べる。

この単元は、【表15】単元計画例に沿って作成した。この例は、【表14】をもとに、「知る」段階と「語る」段階を繰り返す考え方である。

【表15】では、「知る」「語る」を繰り返すことで、「語る1」の段階で中間発表会を行い、修正点が整理できる。このことで、「知る2」の段階で活動の視点が明確になり、体験が深まる。体験が深まることで、「語る2」の段階で発表・対話の内容が高まる。

以上の考えをもとに作成した単元計画が【表16】である。

【表13 距離と社会科との関連から決定した素材】

学年	距離	素材	決定した素材	視点
3	1km未満	都万神社 桜川伝説 神宮寺跡 稚児ヶ池 日向国府跡 酒元観音立像	都万神社 (平安) 桜川伝説 (伝承) 神宮寺跡 (明治)	距離
			稚児ヶ池 (室町)	距離
4	2km未満	記紀の道	記紀の道 (神話・伝承)	距離
5	3km未満	西都原古墳群	西都原古墳群 (古墳)	距離
6	3km以上	木造山路 毘沙門天像	日向国府跡 (平安)	社会
			酒元観音立像 (平安)	社会
			木造山路毘沙門天像 (室町)	距離

【表14 単元計画基本モデル】

NO	段階	児童の活動	活動場所	教師の支援
1	オリエンテーション	流れをつかむ。	教室 校内	学習の流れについて説明する。
2	知る	資料を通して知る。	教室 校内	歴史・伝統的素材の概要を知らせる。
		体験を通して知る。	現地	見て、聞いて、触れて、行う体験を通して調べさせる。
3	語る	発表を通して語る。	教室 校内	調べたことを資料にまとめ、発表させる。
		教師との対話を通して語る。	教室	学んだことを語らせ評価する。

【表15 単元計画例】

NO	段階	児童の活動	時数
1	オリエンテーション	流れをつかむ。	2
2	知る 1	資料を通して歴史的内容を知る。	4
		体験を通して知る。	4
3	語る 1	中間発表を通して語る。	7
4	知る 2	体験を通して知る。	5
5	語る 2	本発表を通して語る。	8
		対話を通して語る。	5

【表 16 具体的な単元計画】

対象学校	小学校		学年	第5学年	
単元名	西都原古墳群を知って語ろう		内容領域	「歴史・伝統と自分」	
単元目標	関心・意欲・態度	西都原古墳群について興味・関心をもち、自信をもってそのよさや課題を人に語ろうとする。			
	思考判断	西都原古墳群のよさや課題について自分なりの考えをもつ。			
	技能表現	西都原古墳群の特徴ある古墳について調べたことを、自分なりにまとめ、自信をもって語るができる。			
	知識理解	西都原古墳群の特徴ある古墳について、名前や特徴（現在の環境、歴史的内容、人々の生き方）を知る。			
単元の意図	<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元は西都原古墳群の特徴的な古墳について、名前や特徴（現在の環境・歴史的内容・人々の生き方）を知ることを通して、西都原古墳群のよさや課題を考え、自分なりにまとめたことを、自信をもって語ることをねらいとしている。そのために、西都原古墳群を①「オリエンテーション」②「知る活動1」③「語る活動1」④「知る活動2」⑤「語る活動2」の5つの学習活動で構成する。</li> </ul>				
単元計画			総時間数	35時間	
段階	月	時間	活動	留意点	
オリエンテーション	4～5	1～2	<b>流れをつかむ</b> ○ 単元の流れや学習の内容の概要を知る。	<b>歴史的内容</b> ・ 35時間の時間配分や、活動の留意点について知らせる。	<b>人々の生き方</b>
		3～6	<b>資料を通して知る</b> ○ 西都原古墳群について知る。 【4時間の活動】 ・ 形と築造順  ・ 大きさの順  ・ 出土品  ・ 西都原古墳群と地域の人々との関わり	◎ この段階で古墳の名前と歴史的内容、地域の人々との関わりを知らせる。  ・ 古墳の一般的な形の概要（円墳、方墳、前方後円墳、前方後方墳）を教える。 ・ 西都原古墳群の古墳の形を確認させる。 ・ 一般的な形通りになっていない古墳（鬼の窟古墳）を探させ、築造年代の違いに目を向けさせる。 ・ 古墳の築造年代を調べさせる。 ・ 古墳の大きさの順を調べさせる。 ・ 子持ち家形埴輪や舟形埴輪を出土した古墳がどの古墳か調べさせる。	・ 西都原古墳群と過去・現在・未来の地域の人々との関わりを知り、その思いを考える。
			<b>体験を通して知る</b> ○ 西都原古墳群を見学し、現在の古墳の様子を確認する。 【見学の視点】 ・ 築造順 ・ 大きさの順 ・ 出土品の出た古墳	◎ この段階では、古墳の名前と歴史的内容を実物と一致させ、現在の環境を見つめさせることで地域の人々との関わりに気付かせる。  ・ 築造年代順に見学した方がよいが、81号墳をスタートし100号墳に行き、13号墳に行くと、同じ道を往復することになるため、13号墳をスタートし、81号墳、100号墳、男狭穂塚、女狭穂塚、169号墳、170号墳、171号墳	・ 古墳の実物を見ながら、古墳を築造した人々はどんな衣服を着てどんなものを食べ、どのような家に住み生活していたのか前時の学習を想起させる。 ・ 出土した埴輪から、当時の人々の思いを

			<ul style="list-style-type: none"> <li>古墳の現在の様子を、絵・写真・写生文等を使って記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>号墳、鬼の窟古墳という流れで見学させる。</li> <li>現在の様子について、写生文を書かせることを通して文章での記録も残させる。</li> <li>時代は、6年生の社会科での学習になるので、何年前という補足説明をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>想像させる。(舟形埴輪の形から航海の大変さや、海に対する思いなど)</li> <li>現在も残っている西都原古墳群は、1700年から1300年前のものであるにもかかわらず、盗掘が少なかった事実を教え、それを守ってきた西都の人がいることを伝える。</li> </ul>
語る 1	9~10	11~14	<b>中間発表を通して語る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>西都原古墳群について気付いたこと、考えたこと、感じたことをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学を通して知った西都原古墳群について、見学記録や資料を整理させ、まとめさせる。</li> <li>発表を聞く視点として、分からなかった部分は何か、付け加える点は何かを与える。</li> <li>発表に対するアドバイスの時間を設け、次の見学につなげさせる。</li> <li>西都原考古博物館の学芸員の方に発表を聞いてもらい、専門的な立場からのアドバイスをもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの生活と当時の人々の生活と関連させながら資料をまとめるようアドバイスする。</li> <li>当時の人々の思いや、古墳を守ってきた人々の思いについて発表ができていのか確認をする。</li> <li>西都原考古博物館で働く人たちの思いを聞く時間を設定する。</li> </ul>
		15~17	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめた発表資料をもとに、中間発表会を行う。</li> </ul>		
知る 2	11	18~22	<b>体験を通して知る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>西都原古墳群に行き中間発表会で課題となったことについて調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この段階では、児童の課題に応じて、歴史的 content と歴史に関わった人々の生き方を知るための活動を計画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題により、西都原考古博物館も見学場所に入れる。</li> <li>課題により、史跡案内ボランティアの方との見学を行う。</li> <li>課題により、西都原考古博物館や、史跡案内ボランティアとして活動する人々との交流を計画する。</li> </ul>
		23~27	<b>本発表を通して語る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>記録した「気付き、考え、思い」をまとめ、発表資料を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間発表会での課題を修正する活動とさせる。</li> </ul>	
語る 2	11~1	28~30	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表資料をもとに、西都原古墳群のよさや課題の発表を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参観日または学習発表会を生かし、多くの児童、保護者、地域の方々や卒業生などに聞いてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2度の体験を通して学んだ人々の思いと関連させ、まとめるよう助言する。</li> <li>古墳築造当時の人々の思い、それを守ってきた人々の思い、守り続ける人々の思いについて表現させる。</li> </ul>
		2	31~35	<b>対話を通して語る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことについて文章にまとめ、教師に学習したことについて説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人5分程度対話を通して、児童に語る体験をさせ、その内容をもとに評価を行う。</li> <li>対話していない児童については、自分が語る内容について文章にまとめる時間とさせる。</li> </ul>

5 1 単位時間の授業展開例の作成

(1) 「知る」授業展開の基本的な考え方

基本的な考え方として、「知る」という内容を歴史的内容と歴史に関わった人々の生き方とした。

歴史的内容を「知る」は、歴史・伝統的素材に対する基本的な知識の獲得であり、歴史に関わった人々の生き方を「知る」は、歴史・伝統的素材に対する過去から現在までの人々の行動や思いの理解である。それは、「さいと学」が単なる「ふるさと教育」の視点だけでなく、ふるさとを通して自他の生き方を学ぶ「キャリア教育」の視点を含むからである。

そして、この二つの「知る」を、素材と児童の活動内容を考え、1 単位時間内にどちらも押さえる場合もあれば、単独の授業展開を図る場合もあるとした。

(2) 歴史的内容を「知る」授業展開の方法

歴史的内容を「知る」授業展開は、ただ単に知るだけではなく、語りたいという意欲に結び付けることが大切である。

【表 17 「語りたい」に結び付ける「知る」の視点】

視 点	内 容	子どもの意識
意外性	既存の知識とのズレがある「知る」	「そうだったのか」
確認性	既存の知識を再認識する「知る」	「やっぱりそうだったんだ」

そこで、語りたいという実感を伴った「知る」にするために、二つの視点

【表 17】を考えた。

実感を伴った「知る」になるためには、児童のもつ既存の知識と新しく獲得する知識のつながりが重要となる。その中で、意外性の視点は、既存の知識とのズレがある事象を提示することにより、児童が疑問を感じ、それを解決することによって「そうだったのか」という実感がもてる「知る」につなげるものである。

確認性の視点は、既存の知識を再認識できる事象を提示することにより、児童が「やっぱりそうだったんだ」という実感がもてる「知る」につなげるものである。

意外性と確認性の視点については、「授業を考える教育心理学者の会」が編集した『い

じめられた知識からのメッセージ』の中で、進藤聡彦は、知識から興味・関心を生み出す流れを述べており、この流れを【表 18】のような三つのステップにまとめた。

【表 18 知識から興味・関心を生み出す三つのステップ】

ステップ	活動内容
1	ルールを教える。
2	ルール通りの事例で確認させる。
3	ルール通りでない事例を提示し、疑問をもたせ、児童の「なぜ」につなげる。

この三つのステップの考えを基盤にし、1 単位時間の授業展開を考えることにした。

このステップを動物学習で具体化したものが【表 19】である。

ステップ 1 で動物の足の裏と食べ物の関係

【表 19 動物学習の三つのステップ】

三つのステップ	草食・肉食動物について
ステップ 1 ルールを教える	動物の足の裏について教える。 肉食動物（やわらかい足の裏＝獲物にきづかれな いため） 草食動物（硬いひづめ足＝長い距離を逃げるため）
ステップ 2 ルール確認	草食のキリンの足は＝ひづめ足 ラクダはひづめ足＝ラクダは草食
ステップ 3 ルール通りでない事例を提示	パンダは何を食べる？「ササ」ということは草食 パンダの足＝やわらかい足の裏 肉食？草食？ パンダはかつて肉食動物だった。

というルールを教え、ステップ2でその関係をいろいろな動物で確認させることで「やっぱりそうだったんだ」という実感をもたせ「知る」につなげる。そして、ステップ3でパンドの事例を出し、今までの知識とのズレから疑問を感じさせ、それを解決することによって「そうだったのか」という実感をもった「知る」につなげる。

この理論を「さいと学」にあてはめ、歴史的内容を「知る」授業展開を計画した。

【表20】のようにステップ1では円墳・方墳・前方後円墳・前方後方墳という古墳の形についての一般的なルールを教え、ステップ2では西都原古墳群の特徴的な古墳の形を確認することで「やっぱりそうだったんだ」という実感をもった「知る」につなげる。

そして、ステップ3で鬼の窟古墳が他の古墳と異なることに気付かせ、今までの知識とのズレから疑問を感じさせ、それが解決することによって「そうだったのか」という実感をもった「知る」につなげる。

そして、ステップ3で鬼の窟古墳が他の古墳と異なることに気付かせ、今までの知識とのズレから疑問を感じさせ、それが解決することによって「そうだったのか」という実感をもった「知る」につなげる。

【表20 西都原古墳群学習の三つのステップ】

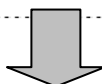
三つのステップ	西都原古墳群について
ステップ1 ルールを教える	古墳の形を一つのルールとして教える。 円墳・方墳・前方後円墳・前方後方墳
ステップ2 ルール確認	西都原古墳群の81号墳・100号墳・13号墳男狭穂塚・女狭穂塚・169号墳・170号墳・171号墳・鬼の窟古墳の形を確認する。
ステップ3 ルール通りでない事例を提示	形に違いのあるものを見つける。 (鬼の窟古墳だけ土壘がある。)なぜ?
流れをつくる 時代順→大きさ →出土品	形の違いから時代の違いにつなげる。一番新しい古墳であることを知らせ、それでは一番古い古墳は何?次は・・・

(3) 歴史的内容を「知る」1単位時間の授業展開例

前記の考えをもとに作成した1単位時間の授業展開例が【表21】である。

【表21 第5学年の授業展開例】

本時の授業		時数	3/35
題材名	西都原古墳群を知って語ろう		
ねらい	西都原古墳群の特徴的な古墳について時代順, 大きさ順, 出土品について知ることができる。		
学習過程			
学習内容・児童生徒の活動	予想される児童生徒の反応	教師の手立て	
1 本時の学習内容を確認する。 西都原古墳群について知ろう! 「西都原古墳群の特徴的な古墳について知る活動を行います。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日は、何を勉強するのだろうか。</li> <li>具体的にはどんなことをするのだろうか。</li> </ul>		
2 学習の流れを知る。 「古墳についてルールを教えます。次にそのルールが西都原古墳群の特徴的な古墳にあてはまるか確認します。そしてその後、調べる活動を行います。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>古墳のルールって何だろう。</li> <li>ルールを確認するってどんなことだろう。</li> <li>何をを使って調べるのだろうか。</li> <li>一人で調べるのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルールを教え、ルールを確認させルール通りでない事例から疑問をもたせるため、ルールを通りでない事例については、この時点では臥せておくようにする。</li> </ul>	
3 ルールを知る。 「まず、古墳というのは何か知っていますか。」「古墳というのは昔の人のお墓になります。」「このお墓は全国にあり形が大きく四つに分けられます。」「円墳・方墳・前方後円墳・前方後方墳です。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>古墳というのはお墓なんだ。</li> <li>お墓にしては大きいなあ。</li> <li>古墳には四つの形があるんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師側が、現在の状況でどの程度知っているか把握するため最初は資料を提示しない。</li> <li>児童の発言をある程度聞いて、その後、古墳の形に分かる資料を提示しながら、古墳の形というルールを教える。</li> </ul>	

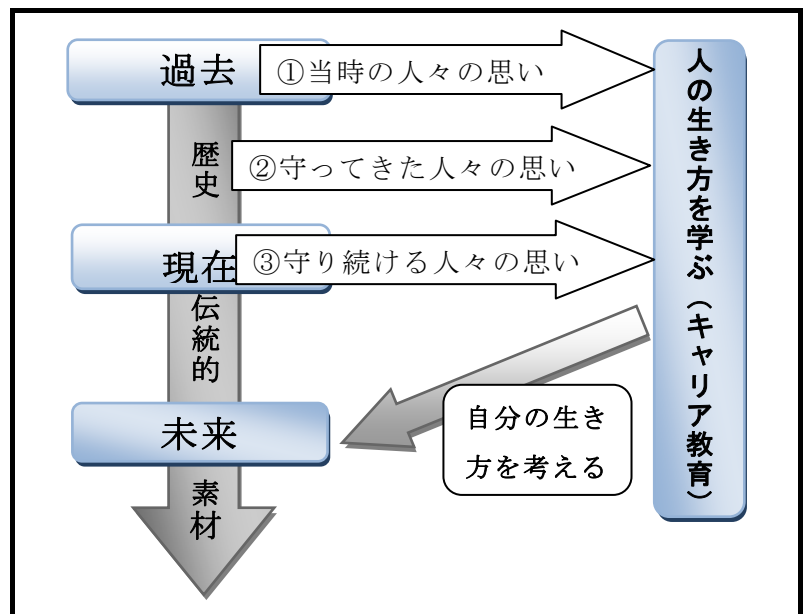


<p>4 ルールを西都原古墳群の特徴的な古墳で確認する。 「それでは、西都原古墳群の古墳で形を確認してみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 169号墳, 170号墳, 鬼の窟→円墳</li> <li>・ 女狭穂塚, 81号墳, 100号墳, 13号墳→前方後円墳</li> <li>・ 171号墳→方墳</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>確認性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西都原古墳群の古墳もルール通りの形だな。</li> <li>・ 方墳は一つしかないのか。</li> <li>・ ちょっと鬼の窟の形は違うな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの古墳の写真と形の分かる資料を提示し、全員で確認する活動をさせる。</li> <li>・ 確認をする作業では、「169号墳は円墳」「女狭穂塚は前方後円墳」というように児童に発言をさせ確認させる。</li> </ul>
<p>5 ルール通りでない古墳を知り、なぜ違うのかという理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鬼の窟古墳にだけ円墳の周りに土塁がある。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>意外性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鬼の窟古墳だけ、古墳のまわりに土の壁があるな。どうしてかな。</li> <li>・ 埋葬されている人が違うのかな。</li> <li>・ 作った人達が違うのかな。</li> <li>・ 作られた時代が違うのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルール通りでない古墳はどれか児童の考えを聞いた後、鬼の窟古墳であることを知らせる。</li> <li>・ 鬼の窟古墳がどうして違う形なのか予想させその根拠も発言させる。</li> <li>・ 発言の後、鬼の窟古墳は特徴的な古墳の中で一番新しい古墳であることを知らせ、築造順を調べる活動につなげる。</li> </ul>
<p>6 西都原古墳群の特徴的な古墳の作られた年代を調べ、時代順に整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 81号墳→100号墳→13号墳→女狭穂塚→169号墳→170号墳→171号墳→鬼の窟古墳</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一番新しい古墳は、鬼の窟古墳と分かったけど、一番古いのはどの古墳かな。</li> <li>・ 81号墳が一番古い古墳なんだ。</li> <li>・ 81号墳はどこにあるのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西都原古墳群探訪ガイド（企画編集西都原考古博物館）を調べる資料として活用させる。</li> <li>・ 築造順と形を整理するワークシートを配布し、調べたことをまとめさせる。</li> </ul>
<p>7 次の学習を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の時間は何を調べるのかな。</li> <li>・ 一番大きい古墳はどの古墳かな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次時は大きさの順を調べることを知らせる。</li> </ul>

(4) 歴史に関わった人々の生き方を「知る」授業展開の方法

歴史に関わった人々の生き方を学び将来の自分の生き方を考えさせるため、歴史・伝統的素材を通してどのように人との関わりを「知る」のか、歴史・伝統的素材とキャリア教育の関係について【図9】のようにまとめた。

過去・現在・未来を貫くものを、歴史・伝統的素材として捉え、「当時の人々の思い」として、素材が築造または建築・製作された当時の人々の思いを、「守ってきた人々の思い」として、過去から現在まで素材を守ってきた人々の思いを、「守り続ける人々の思い」として、素材を守り続ける人々の思いを、それぞれ「知る」ことを歴史に関わった人々



【図9 歴史・伝統的素材とキャリア教育の関係】

の生き方を「知る」とした。

(5) 歴史に関わった人々の生き方を「知る」1単位時間の授業展開例

前記の考えをもとに作成した1単位時間の授業展開例が【表 22】である。

【表 22 第5学年の授業展開例】

本時の授業		時数	6/35
題材名	西都原古墳群を知って語ろう		
ねらい	西都原古墳群に関わってきた人々について知ることができる。		
学習過程			
学習内容・児童生徒の活動	予想される児童生徒の反応	教師の手立て	
1 本時の学習内容を確認する。 西都原古墳群に関わってきた人々について知ろう 「西都原古墳群に関わってきた人々について知る活動をします。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日は、何を勉強するのだろうか。</li> <li>具体的にはどんなことをするのだろうか。</li> </ul>		
2 学習の流れを知る。 「西都原古墳群がつけられた当時の人々の思いや考えを想像します。その後、それを守ってきた人々の思いを考えます。そして、今現在守り続ける人々の活動と思いを知る活動をしていきます。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>古墳がつけられた当時はどんな様子だったのだろうか。</li> <li>守ってきた人々がいるのか。</li> <li>今、西都原を守るためどんな活動をしているのかな。</li> <li>何をを使って調べるのだろうか。</li> <li>一人で調べるのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西都原古墳群と人々との関わりを目を向けさせるようにする。</li> </ul>	
3 古墳がつけられた当時の人々の思いを想像する。 「まず、古墳を作るのに何年かかったのだろう。」「何人の人の手でつけられたのだろう。」「どんなものを食べていたのだろう。」「どんな思いで古墳をつけたのだろう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>何年かかって作ったのかな。</li> <li>何人で作ったのかな。</li> <li>何を食べていたのかな。</li> <li>どんなものを食べながら作ったのかな。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>当時の人々の思い</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何年かかってできたものなのか。延べ何人が働いたのか事前に調査しておく。(女狭穂塚の規模で1日1000人を動員して年間200日働いても2年半の年月がかかる)</li> <li>その当時の衣・食・住についてのイメージがつかめる絵や資料を提示する。</li> <li>築造当時の人々の思いを想像させる。</li> </ul>	
4 今まで古墳を守ってきた人々の思いを知る。 「古墳はおよそ1700年から1300年前のもので。どうして今まで残っているのかな。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>どうして1700年から1300年も前のものが残っているのかな。</li> <li>だれも壊そうとしなかったんだ。</li> <li>だれか守ってきたのかな。</li> <li>なぜ、古墳を守っているのかな。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>守ってきた人々の思い</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大切なものとして地域の人々が守り続けてきたこと、大正時代に発掘調査が行われたことを知らせ、価値のあるものとして守られてきたことを知らせる。</li> <li>西都原古墳群築造から現在までの流れのわかる年表を提示し、守られてきた流れとそれに関わる人々がいたことに気付かせる。</li> <li>守ってきた人々の思いを想像し発言させる。</li> </ul>	
5 現在、古墳を守り続ける人々の活動と思いを知る。 「今も、古墳を大切に思い、活動をしている人がいることを知っていますか。」「知っている人は教えてください。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>古墳祭りがあるな。</li> <li>草刈りをしている人を見たことがあるな。</li> <li>今も守っている人がいるのかな。</li> <li>「おほほ・めほほ」というお菓子を食べたことがあるな。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>守り続ける人々の思い</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西都原古墳群を大切に思い、古墳を舞台にした古墳祭りを続けている地域の人々がいることを知らせる。</li> <li>西都原古墳群をテーマに、西都市の名物のお菓子をつくり活動している人がいることを知らせる。</li> <li>今、西都原古墳群に関連して活動している人がいることを知ってどんなことを考えたか発言させる。</li> </ul>	



6 西都原古墳群をこれからどのように扱ったらよいのか考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西都原古墳群にはいろいろな人が関わっているんだな。</li> <li>・ 私にもできることがあるかな。</li> <li>・ 今までは遊ぶ場所と思っていたな。</li> <li>・ 自分も何かやりたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西都原古墳群を通して、地域の人々がどのように考え、自分たちはどんなことができるのか用紙に文章を書かせまとめさせる。</li> <li>・ 文章にまとめたことをもとに、西都原古墳群に対する人々の思いやこれからの自分たちの姿について発言させる。</li> </ul>
7 次時の学習を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の時間は何を調べるのかな。</li> <li>・ 早く、古墳群を見学したいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次時は、西都原古墳群を見学に行くことを知らせる。</li> </ul>

## 6 評価方法の工夫

### (1) 「語る」を評価する基本的な考え方

佐藤 真は『ポートフォリオ評価による通知表・指導要録の書き方』の中で、『ポートフォリオを介して児童と教師が語り合うという「対話」は、児童と教師の双方に、語り合うという直接的な交流こそが、本来的な教育的評価活動であるということを再認識させるとともに、児童の教師に対する信頼感を育み、評価を透明性の高いものにするのである<sup>2)</sup>』と述べている。本研究では、この考えを基盤として、ポートフォリオを介した「対話」を評価方法とした。

ポートフォリオを作成することは児童生徒にとって 12 年間の一貫した取組の記録となり、教師にとっては実態の把握及び評価の重要な資料となる。更に、ポートフォリオをもとに児童が教師と「対話」することそのものが「語る」の一つの姿であると考えた。

### (2) 「対話」の具体的方法

本研究における「さいと学」では、歴史・伝統的素材に焦点を当て、計画的に教材を配列したため 35 時間の中に 5 時間「対話」の時間を設定することが可能となった。このことにより、一人当たり 5 分程度、「対話」の時間がもてるようになる。

「対話」は、児童が教師に対して学んだことを語ることからスタートし、教師はその内容を聞きながら、児童に質問をしたり、アドバイスを与えたりする。それに応じる形で児童は教師に語ることを続けていく。

児童と教師が「対話」している間に、他の児童は、資料を整理したり、学んだことを記録したり、対話をするための準備をする。

「対話」は教室で行い、「対話」を行う児童の姿を他の児童も感じ取れるようにすることが望ましい。

### (3) 「対話」とルーブリック

「対話」は、ルーブリック（指標）をもとに評価するようにする。**【表 23】が歴史・伝統的素材に焦点を当てた「さいと学」評価の基本的なルーブリック例である。**

ルーブリックは、「知る」の視点を評価に生かすために、歴史的内容、歴史に関わった人々の生き方、自分の生き方という三つの視点で作成した。

教師は児童との「対話」で、このルーブリックをもとに評価を行っていく。また、どのような活動ができたとき、ルーブリックのどの段階になるのかを明らかにし「対話」を進めていく。

【表 23 歴史・伝統的素材に焦点を当てた「さいと学」評価の基本的なルーブリック例】

視点 段階	歴史的内容 (History)		歴史に関わった人々の生き方 (Person)		自分の生き方 (Life)
	過去 (past)	現在 (now)	過去 (past)	現在 (now)	
5 すばらしい	学習した歴史・伝統的素材の名前・特徴を全て述べることができる。	歴史・伝統的素材の現在の様子を、自然・環境の面について詳しく述べることができる。	学習した歴史・伝統的素材について当時の人々の思い、現在まで守ってきた人々の思いを述べることができる。	学習した歴史・伝統的素材について現在守り続ける人々の活動と思いを述べることができる。	西都市の良さや課題について自分なりの考えを過去・現在という視点で述べることができ、自分は将来西都市にどう関わっていこうと考えているか述べることができる。
4 とても良い	学習した歴史・伝統的素材の名前・特徴を全て述べるができる。	歴史・伝統的素材の現在の様子を、自然・環境の面について詳しく述べることができる。	学習した歴史・伝統的素材について、当時の人々の思い、現在まで守ってきた人々の思い、現在守り続ける人々の活動と思いの三つの中から二つについて述べるができる。		西都市の良さや課題について自分なりの考え述べ、自分は将来西都市にどう関わっていこうと考えているか述べるができる。
3 良い	学習した歴史・伝統的素材の名前や特徴をほとんど(8割程度)述べるができる。	現在の様子を自然・環境面について述べるができる。	学習した歴史・伝統的素材について、当時の人々の思い、現在まで守ってきた人々の思い、現在守り続ける人々の活動と思いの三つの中から二つについて述べるができる。		自分は将来西都市にどう関わっていこうと考えているか述べることができる。
2 さらに努力を要する	学習した歴史・伝統的素材の名前や特徴を半分(5割程度)述べることができる。	現在の様子を自然・環境面について述べるができる。	学習した歴史・伝統的素材について、当時の人々の思い、現在まで守ってきた人々の思い、現在守り続ける人々の活動と思いの三つの中から一つについて述べるができる。		学習した歴史・伝統的素材について自分なりの考えを述べるができる。
1 不十分	学習した歴史・伝統的素材の名前や特徴を述べるができない。	現在の様子を自然・環境面について述べるができない。	学習した歴史・伝統的素材について、当時の人々の思い、現在まで守ってきた人々の思い、現在守り続ける人々の活動と思いを述べるができない。		学習した歴史・伝統的素材について自分なりの考えを述べるができない。

(4) 理想とする児童の「語り」

「評価5すばらしい」の「語り」を次のように捉えた。例として挙げるのは第5学年「西都原古墳群を知って語ろう」の単元である。

この「語り」では、ルーブリックの視点が分かるように、下線部を設けた。下線部は【表 23】をもとに歴史的内容の過去 (Hp)，歴史的内容の現在 (Hn)，歴史に関わった人々の生き方の過去 (Pp)，歴史に関わった人々の生き方の現在 (Pn)，自分の生き方 (L) としている。

『ぼくは、西都原古墳群で一番古い古墳が 81 号墳 (Hp) だということを知りました。今の81 号墳は西都原で一番古い古墳なのに、あまり知られていないなあと感じています。だから看板を作って紹介する活動をするといい (Hn・L) と思いました。

次に古い古墳が 100 号墳 (Hp) でした。100 号墳はレーダーで古墳の中を調べて、どこに埋葬されているのか分かる説明パネル (Hn) がありました。言葉は難しかったけど、赤い部分に埋葬されていたのが分かりました。そして100 号墳では「ふき石」というものが古墳の表面にあった (Hp) ということを知りました。いつも見る古墳は草が生えているので、最初から丘のように草が生えていると思っていたから驚きました (Hn)。

次に古い古墳が 13 号墳でした (Hp)。13 号墳には古墳の中に入ることができました。中に入るのは 2 度目だけど、ひんやりして不思議な感じでした。古墳の中にどんな様子で埋葬されていたのかよく分かる古墳でした。それから、古墳の横には 20 分の 1 の模型があり (Hn)，100 号墳と同じように古墳の表面が「ふき石」で敷き詰められている模型を見て、よくここまで敷き詰めることができたなと感じました (Pp)。石は平たく丸い石なので、あんなにたくさんの石を敷きつめるためには、石のある場所から運ぶ人と古墳に敷き詰める人がいて、別々に作業している姿がうかびました (Pp)。一体、どれくらいの人が、何日かかって作ったのだらうと思いました。今度、自分で調べてみたいです (L)。

次に古い古墳が男狭穂塚 (Hp) でした。男狭穂塚は日本最大級の帆立貝式古墳 (Hp) だそうです。僕の故郷の西都に、帆立貝式では日本一大きい古墳があることを知って、ちょっと嬉しくなりました。どんな人が埋葬されているのか知りたくなりました (L)。埋葬されている人には、いろいろな説があるそうです。言い伝えでは、古墳祭りの時に記紀の道を松明行列の先頭を歩くニニギノミコトだそうです (Hp)。

女狭穂塚はニニギノミコトのお嫁さんのコノハナサクヤヒメのお墓 (Hp) と言われているそうです。全体の長さが約 180m で外側から見ると山にしか見えません。それだけ大きい古墳でした (Hn)。この古墳も九州最大の古墳 (Hp) だそうです。これだけ大きい古墳が西都にあるということを知ってみんなに自慢したくなりました。どちらの古墳も巨大な古墳なので当時の西都市の人たちが協力して汗を流してつくったんだらうなと思いました。何年もかけて完成した時は、みんなで喜んで、お祝いしたのかなと思いました (Pp)。

そして、今も、西都市観光協会の人たちが西都原のことを、いろいろな人に知ってもらおうと、男狭穂塚と女狭穂塚をモデルに西都原でとれた菜の花の蜜を使って、「おほほ」「めほほ」という前方後円墳の形をした「どら焼き」を作り活動を続けていることも知りました。古墳があるから昔の人たちと今の人たちがつながっているなあと感じました (Pn)。

次に古いのが 169 号墳 (Hp) です。説明パネルがあり (Hn)，日本に一つしかない「子持ち家形埴輪」が出土した (Hp) とされていたようです。古墳は円墳で、丸い形がとてもきれいでよくあんなに丸く作れたなあ (Pp) と思いました。隣に、170 号墳 (Hp) がありました。後の調査で、「子持ち家形埴輪」は 170 号墳から出土された (Hp) となったそうです。僕が見学したときはネットがはってあって近くまでいけなかったけれど、古墳の周りで植物や果物を栽培しながら生活している人たちがいるんだなあと思いました (Hn)。1500 年前にもいろいろな動植物が古墳の周りにいたんだらうなと感じました (Pp)。

次に古いのが 171 号墳 (Hp) です。この古墳は西都原古墳群でただ一つの四角い方墳 (Hp) でした。説明パネルに昔の様子の絵が書いてあり、男狭穂塚・女狭穂塚と 171 号墳の場所がよく分かりました (Hn)。そして、円筒埴輪がありました (Hn)。バケツを上も下も同じ円にして、もう少し大きくしたものでした。古墳と他の場所との違いを出すために置かれた埴輪だそうです (Hp)。同じようなものをレプリカといいレプリカの円筒埴輪が置いてあったので絵と本物みたいなものがあると分かりやすいんだなあと感じました (L)。他の古墳にも円筒埴輪を置くといいと思いました。埴輪の作り方も知りたいので円筒埴輪をつくるイベントがあったら参加してみたいです。そして僕の作った円筒埴輪で古墳を守

ってみたいです (L)。

一番新しいのが鬼の窟古墳 (Hp) です。春は桜と菜の花、秋はコスモスに囲まれて見える鬼の窟はとてもきれいです (Pn)。その鬼の窟の名前の由来には二つの言い伝え (Hp) があることを知りました。鬼伝説と力比べ伝説 (Hp) です。どちらも面白いなあと思いました。それから、鬼の窟古墳には周りに土塁という土の壁がありました (Hp)。この土塁のある古墳は、日本でも少なく奈良県明日香村にある「石舞台古墳」という、今は石だけしか見えない古墳と、三財にある「常心塚古墳」の3つだそうです (Hp)。西都と奈良県は、何か友達みたいでした (L)。

最後に調べ活動や見学活動をして一番心に残ったことです。それは、西都原古墳群はとてもきれいに残っている古墳ということです (Hn)。

古墳の中には人と一緒にいろいろなものが埋められていたそうです。その埋められていたものを獲ろうとして、古墳が荒らされることがよくあったそうですが、西都原古墳群はそのようなことがとても少なかったそうです。そして、建物を建てずに、昔のままの姿を大切にしたいそうです。だから、1300年から1700年たっても昔のまま残っていることを知りました。いろいろな人の努力によって守られた古墳なんだなあと思いました。(Pp・Pn)

それから、古墳祭りの踊りは今神楽といって毎年踊りを変えないそうです。それは、同じ踊りを100年続けて本当の神楽にしようと考えているのだそうです (Pn)。僕は、西都市の100年後を考えている人が、今、西都にいることを知ってびっくりしました。そして、西都市のために何か残してみたくくなりました。将来、西都市を紹介する本を書いてみたいです。それを読んだ人が西都市に遊びに来てくれるといいと思います。そのために、西都の人たちを中心に西都市の大切なものをこれからも守っていきたいと思います(L)。

この「語り」を一つの理想例として、「さいと学」の評価を行い、語るができない児童へのアドバイスも加え、指導につなげていく。

## VII 研究の成果と課題

### 1 成果

まず、研究の仮説1「地域の歴史・伝統的素材について語る事ができれば、児童は、地域を愛するようになる。」については、「名前を知っている」「特徴を知っている」「説明することができる」「大切に思う」は、関連性があることが明らかになった。

また、名前を知っている児童よりも、特徴を知っている児童の方が大切に思う割合が高く、更に、特徴を知っている児童よりも、説明できる児童の方が大切に思う割合が高い傾向があることがつかめた。

次に、研究の仮説2「地域の歴史・伝統的素材を教材にし、単元構成の工夫と評価方法の工夫を行えば、地域を語る事ができる児童を育成できる。」については、以下の5点の成果を得た。

- ① 所属校の児童について調査を行った結果、児童が答えた歴史・伝統的素材は校区に集中していることが分かった。
- ② 単元構成の工夫について、小中高を見通した学習内容配列の考え方、小学校の学習内容配列の考え方、単元計画基本モデルを提案できた。

- ③ 単元構成の工夫について、小中高を見通した校種ごとの学習内容の配列例、小学校段階の学習内容の配列例、単元計画例を作成することができた。
- ④ 1 単位時間の授業展開例について、歴史的内容を「知る」と歴史に関わった人々の生き方を「知る」という二つの展開例を作成することができた。
- ⑤ 評価のルーブリックと「語ることができる」児童の理想像を作成することができた。また、研究を深める中で、以下の2点の感想を得た。
- ① 西都市の歴史・伝統的素材を取材することにより、地域の素材の歴史的価値を再確認できた。
- ② 実態調査で、児玉久右衛門について「名前を知っている」「特徴を知っている」「説明することができる」「大切に思う」と回答した割合が非常に高く、現行の社会科学習と校外行事を組み合わせた学習は効果的であると考えた。それに伴い、児玉久右衛門については、「さいと学」と社会科の関連を図る重要性を実感した。

## 2 課題

本研究における課題は以下の2点である。

- ① 仮説1の「地域の歴史・伝統的素材について語ることができれば、地域を愛するようになる。」という因果関係について、授業実践の前後にアンケート調査を行い、授業前と授業後の児童の意識を比較し、児童の変容から仮説を検証する必要がある。
- ② 仮説2の「地域の歴史・伝統的素材を教材にし、単元構成の工夫と評価方法の工夫を行えば、地域を語ることができる児童を育成できる。」では、作成した単元計画例と授業展開例をもとに授業実践を行うことで、児童は地域を語ることができるようになったか、児童と「対話」する中で仮説を検証する必要がある。

### — 引用文献 —

- 1) 森 敏昭・秋田喜代美 (2006年) 『教育心理学キーワード』 有斐閣 (p. 60)
- 2) 佐藤 真 (2001年) 『ポートフォリオ評価による通知表・指導要録の書き方』 学事出版 (p. 34)

### — 参考文献 —

- 西岡加名恵 (2003年) 『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』 図書文化社
- 田浦チサ子 (2004年) 『日本のふるさと 西都・西米良紀行一宮崎県一』 文章堂
- 授業を考える教育心理学者の会 (1999年) 『いじめられた知識からのメッセージ』 北大路書房
- 西都市史編纂委員会 (昭和51年) 『西都の歴史』 宮崎タイプ印刷
- 西都市教育委員会 (平成17年) 『小学校用 わたしたちの西都原』 イマイ印刷
- 西都市教育委員会 (平成17年) 『中学校用 特別史跡わたしたちの西都原』 イマイ印刷
- NPO 法人さいと旗たて会 (2007年) 『西都市の歴史 早わかりガイドブック』 ふくしげ印刷
- 日高正晴 (1993年) 『古代日向の国』 日本放送出版協会
- 梅原 猛 (2000年) 『天皇家の“ふるさと” 日向をゆく』 新潮社
- 坂上康俊・長津宗重・福島金治・大賀郁夫・西川誠 (1999年) 『宮崎県の歴史』 山川出版社
- 宮崎県小学校教育研究会社会科部会 (昭和54年) 『宮崎の歴史ものがたり』 日本標準
- 佐藤照雄 (1977年) 『郷土史学習の展開』 学事出版
- 辰野千寿 (1985年) 『教室の心理学』 教育出版
- 田中 敏・山際雄一郎 (1989年) 『教育・心理統計と実験計画法』 教育出版
- E. H. カー著, 清水幾太郎訳 (1962年) 『歴史とは何か』 岩波書店
- フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』, 藤原保昌.  
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%97%A4%E5%8E%9F%E4%BF%9D%E6%98%8C> 2007. 8. 21 取得
- 小峯和明 (2002年) 『今昔物語集の世界』 岩波書店
- 北郷泰道 (2007年) 『古代日向・神話と歴史の間』 鉾脈社
- 日本放送出版協会 (平成7年) 『復刻版 NHK 歴史への招待 ⑫』 凸版印刷株式会社

佐藤一一（平成 9 年） 『宮崎の偉人（上）』 鉦脈社  
佐藤一一（平成 9 年） 『宮崎の偉人（中）』 鉦脈社

〈研究実践学校〉 西都市立妻北小学校